

# 特定非営利活動法人 JIPPO

## 2016(平成 28)年度 事業活動報告

2016年4月1日から2017年3月31日まで

### 1. 2016年度を振り返って

浄土真宗本願寺派を母体とする JIPPO は、寺院に寄せられた災害支援金を確実に被災地に役立てるという役割も果たしています。2013年に起きたフィリピン台風 30 号においても、被災地レイテ島で小学校を再建する事業を行い、今年度、竣工を迎え現地自治体へ建物を譲渡しました。

また、治安状況を鑑み実施後評価を先送りしていたパキスタンの飲料水供給プロジェクトも、今年度ようやく現地踏査を行うことが出来ました。プロジェクト後 3 年が経過していましたが、ほとんどの井戸が良好に使われており所期の目的に達する成果を挙げていました。一方でカウンターパートとの信頼関係の構築や丁寧な事前調査の重要性を再確認しました。貧困問題は平和を揺るがす最も大きな要因といえ、JIPPO は、声を上げられず支援の届かない弱者に対して草の根の活動を着実に実施しています。

一方で、課題はフェアトレード事業の収益を上げ、事業に還元できる規模に拡大することが挙げられます。フェアトレードの知名度がまだまだ世間に浸透していないため、啓発活動にも力を入れ、販売戦略を立てる必要があります。これと絡め、2 月にはフェアトレード紅茶の生産地であるスリランカ・ウバ地方において小規模自営農民を育成する事業を視野に入れた調査を行いました。国や地域を越えてともに生きる社会の実現に向け、新たな取り組みを進めることになりました。

### 2. 事業・活動内容

#### (1) 海外支援事業

##### ① パキスタン

事業名	パキスタン クアルド村の飲料水供給のためのハンドポンプ設置事業 評価および事業案件調査
実施地	パキスタン ギルギット・バルチスタン州 スカルドゥ・クアルド地区
期間	2016年7月11日(月)から21日(木)
受益者	地区村内 50 世帯 (受益者 500 人)
評価結果	JIPPO は 2013 年、日本国際協力財団の助成金を受け、標記の事業を行った。今年度、設置 3 年を経て現地踏査を行い、村の管理委員会の案内で各井戸の使用状況を確認したほか、プロジェクトで育成した女性の健康・衛生普及員と一緒に受益者家庭を訪問した。また設置時に水質に問題が合った井戸を含む村内の水源 3 箇所について公的機関の水質検査を行った。その結果、設置した井戸 14 基のうち 4 基が部品の破損により、使用できない状態であったが、そのほかの井戸は安全な水が潤沢に出ていることを確認した。また女性の水汲みの苦痛は軽減され、プロジェクト前には多かった腹痛や下痢、皮膚病も改善されていた。 なお近隣には給水問題を抱えている集落が多く、住民らの自助努力にも限界があり、支援の必要性は高い。

②フィリピン

事業名	2013年フィリピン台風30号 災害復興支援事業 サンブラワン小学校再建プロジェクト 建物譲渡及び竣工式
実施地	フィリピン共和国 レイテ州 サンイシドロ町 バランガイ バスッド
実施日	2016年4月19日(火)
内容	2013年11月のフィリピン台風30号によって大破した、レイテ州サンイシドロ町の「サンブラワン小学校」を再建する事業。浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金、同仏教婦人会総連盟ダーナ献金をはじめとする寄付総額14,110,689円により実施した。建設費は860万円。 2014年度より事業及び事業地の選定を開始。遠隔地であることや行政の事情、雨季などに阻まれ工事は難航したが、2016年4月に完成、現地自治体に譲渡した。
受益者	バランガイ バスッドの100世帯の子どもとその親、約200人
成果	校舎は鉄筋平屋約1300㎡で、3つの教室と井戸、トイレを新設。児童生徒120人分の肘机付き椅子を寄贈した。小学校には約130人の子どもたちが学んでいる。竣工式は会員を対象にツアーを実施し、理事、会員、事務局職員の計8名が現地を訪問した。 学校では学習環境が整ったことで児童生徒の学習を続ける意欲が高まることが期待できるとしている。また太平洋戦争最大の激戦地において両国の友好を深めるきっかけとなった。
事業費	2,433,063円(2016年度直接経費)

(2)スタディーツアーの企画・実施

事業名	スリランカスタディーツアー 「紅茶の故郷スリランカ プランテーションと人々の暮らし」
実施地	スリランカ・コロombo、ハプタレー、ゴール
期間	2016年8月19日(金)から8月26日(金)
内容 成果	JIPPOが扱うフェアトレード商品(ウバ紅茶)生産地のグリーンフィールド農園や市立幼稚園を訪問したほか、コロombo郊外のモラトワ市でホームステイを行い、異文化交流を深めた。京都女子大学現代社会学部国際理解プログラムの海外研修に採択され、学生の学びに寄与した。
参加者	14名(JIPPO引率2名を含む)

(3)フェアトレードの実施

スリランカ産「ウバ紅茶」および東ティモール産「カフェ・ティモール」をフェアトレードラベルの国際基準に則り販売。ウバ紅茶は生産者から茶葉を直接購入し、カフェ・ティモールは、現地で生産者組合を組織するNPO法人パルシックと連携し原材料の生豆を調達した。

①販促活動実績

JR京都伊勢丹にてプロモーション(フェアトレード、エシカルフード)出店  
期間:10月4日(火)~11日(火)。

②今年度売上額:¥2,214,433.-

(前年度売上:¥2,352,205.- 前年度比:94.1%)

(4)国内災害復興支援

①東日本大震災(2011年3月11日)復興支援「菜の花プロジェクト」

南相馬農地再生協議会と連携して実施。同協議会が生産する菜種油「油菜（ゆな）ちゃん」および南相馬市小高地区のアグリマックス 21（ファーム蛭沢より移行）が生産する「浦里の雫菜の花オイル」の販売協力を行う。

5月に「貸し切りバスで行く“真宗移民歴史のまち”南相馬」を企画したが、最少催行人数に達せず中止した。

②熊本地震（2016年4月14日、16日）復興支援

カンボジアとの民俗芸能の交流を通して復興を支援するプログラムを、助成団体に助成申請したが、不採用であった

③被災地の特産品販売実績

本願寺盆踊り、伝灯奉告法要等で福島及び熊本の物産を販売した。

今年度売上額：¥1,017,918.-

（前年度売上：¥1,560,580.- 前年度比：65.2%）

(5)国内における貧困者への支援

- ・京都市内3河川の巡回  
定期的な巡回は行わず、個別相談に対応した。
- ・第22回もちつき大会（東本願寺前、1月21日（土））の実施協力。

(6)啓発活動

- ・龍谷大学 講義「ボランティアNPO入門」ゲストスピーチ（5月11日）。
- ・龍谷大学短期大学部 講義「国際福祉実習指導」ゲストスピーチ（5月13日）。
- 国際福祉実習受入れ（8月2日、22日、9月9日～11日）。
- ・京都国際協カステーション参加（9月11日）。
- ・浄土真宗本願寺派第25代専如門主伝灯奉告法要協賛行事 活動展および物販（10月1日～2017年5月31日、断続的に全10期80日間）。
- ・御正忌報恩講バザー（1月14～15日）、売上87,230円。2017年度の国内の貧困者支援事業に充てる。

(7)NGO・NPO、教育機関等との連携

- ・アユス主催の合宿研修会に参加（4月14～15日）。
- ・京都女子大学とのスリランカスタディツアー連携。

(8)法人活動に関する情報発信並びに啓発活動

- ・冊子「浄土真宗本願寺派親鸞聖人750回大遠忌 宗門長期振興計画に伴うJIPPO10年を振り返る」を発行。
- ・ホームページに英語ページを開設。
- ・会報第15号発行（8月1日付）
- ・浄土真宗本願寺派仏教婦人会総連盟機関誌「めぐみ」236号に寄稿。

(9)調査・研究

スリランカ ウバ紅茶生産者支援の案件調査

実施日：2017年2月20日～3月2日

成果：紅茶を生産する小規模農民の組織化と、新たな商品開発支援を案件開拓した。

(10)組織運営、会員管理

- ・6月16日、第1回理事会、第8回総会開催。

・7月4日、第2回理事会開催。役員改選。

・2017年3月3日、副理事長改選。

【会員数】（2017年3月31日現在）

正会員 137（個人127、団体10）

学生会員 16（個人16）

賛助会員 193（個人175、団体18）

合計 346（個人318、団体28）

以 上